

WHO Communicating radiation risks in pediatric imaging

『WHO 小児画像検査と被ばくのリスクコミュニケーション手引き』の紹介

このたび世界保健機関 (World Health Organization, WHO) から小児画像診断に伴う放射線被ばくに対するリスクとベネフィットを考慮したリスクコミュニケーションの手引書が発表された。この手引書は1) 科学的な背景に基づく現在の小児医療被ばくの現状、2) 被ばく低減のためのコンセプト 3) 患者や患者の家族からの質問に対する理想的なコミュニケーションの方法の3つの章が全88ページにわたり掲載されている

本手引書はエンドユーザーとして小児科医、外科医、開業医、救命医など小児の画像診断をオーダーする立場にあるもの、小児画像診断に直接かかわる立場にいるもの(放射線科医、診療放射線技師、心臓カテーテル検査を行う循環器科医など)、行政、公衆衛生学の専門家や医学生などを想定している。

第1章では公衆衛生学的な世界の医療被ばくの頻度や傾向を解説している。また低線量被ばくのリスクにつき最新の論文を引用し、医療被ばくの発がんに対する影響の低さを強調している。第2章は検査の“正当化(justification)”と“最適化(optimization)”について、ガイドラインの有用性や被ばく低減可能なCTのパラメーターをわかりやすく解説している。第3章は患者家族からの具体的な質問に対する解答の例を会話形式で説明しておりリスクコミュニケーションの具体的な対応が理解できる。

本文は英語で書かれており、内容がDiagnostic Radiologyではないため若干理解しにくい点はあるが、WHOが小児医療被ばく対策に対し積極的な姿勢を示していることが感じられる。本学会員の先生方にはぜひご一読をお勧めする手引き書である。

COMMUNICATING RADIATION RISKS IN PAEDIATRIC IMAGING

Information to support healthcare discussions about benefit and risk

http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/205033/1/9789241510349_eng.pdf

2016 6月 宮寄 治